## 編集後記

先月、北九州市において、一般財団法人エンジニアリング協会と弊財団の共催で、「魅力ある九州経済の発展のために」と題したセミナーを開催した。その基調講演でプレゼンターが発したメッセージが強く印象に残っている。九州経済の持続的発展に関連した成長産業戦略や地域開発等を論じた後、地方都市の発展に最も欠けてはならいない要素として、郷土愛をあげた。理屈、事実、経済合理性に基づく施策は大事だが、街や地域が質の高い発展を遂げるためには、最後は郷土を愛する力、その街を想う熱量が必要だという。

プレゼンターの指摘は、日本の地方にとどまらず、海外の都市ビジネスにおいても当てはまるだろう。郷土愛改め、開発する街を想う力、とでもいうべきか。総合病院の前は、救急患者の搬送のために車線を増やそう。住宅エリアには憩いのための公園やコミュニティーセンターをつくろう。幼稚園や小学校の周りは、モニターやセンサーを２倍に増やして、子供たちをより安全に。街や人を想えば、さまざまなアイデアが湧き出る。きめ細やかな思い、配慮は、日本企業の強みである。採算の見地から少し距離をおき、効率性や快適性を追求したデジタル技術を駆使して、右脳も活用した都市ビジネスを展開する。一見、相反するこの組み合わせは、ROICに照らせば遠回りのアプローチかもしれないが、利益一辺倒・効率一辺倒ではない発想こそが、実は進出した相手国から信頼を得る近道であり、日本企業が得意とする真心こもった都市開発のための特色ある事業ツールなのかもしれない。

総務部長　田丸伸介


**海外投融資**
Vol.30 No.2（通巻170号）
2020年3月25日発行

発　　行
一般財団法人　海外投融資情報財団

発 行 人
日塔 貴昭
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
３番６号　九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311（代）
URL. www.joi.or.jp

制作協力
（株）エディポック


＊本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。


●禁　無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher. ©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan


## 九段だより

### バーのある人生（５）「いいバー」についての極私的見解

「いいバーを教えてくださいヨ」とよく訊かれる。

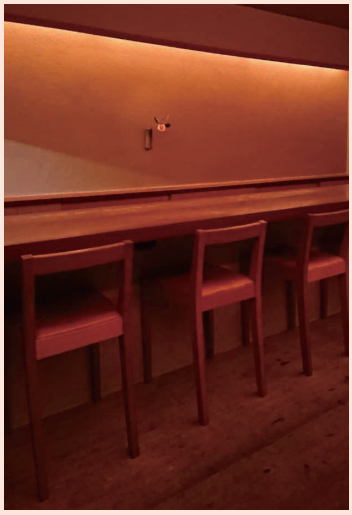
賢明な読者は察しのとおり、すべての人にとって「いいバー」というのは存在しない。私だって、背筋を伸ばして飲みたいときもあれば、場末な雰囲気に包まれたいときもある。あなたの今の気分など知るわけがない。そういってしまえばそれまでだが、「いいバー」ってなに？という問いは、哲学好きな私の心をくすぐるものがある。

私なりにバーの要素を分解すると「空間」、「酒」そして「人」である。

店に入ってまず関心が向くのは「空間」である。カウンターの造り、壁の質感、照度やバックバーの佇まいなど、最近はネット情報である程度の「見た目」が事前に判かるので便利である（「トイレが大事」という人もいたが、ネット情報では得難い）。私が初めて入るバーで気になるのは椅子である。デザインがどうの、アンティークがこうの、というのではなく「座り心地」である。簡素な設えであっても、カウンターへの腕の乗せ心地や体重の分散がしっくりくる椅子と出会うと嬉しくなる。身体の感覚は結構大事だと思う。

そして次が「酒」。何が正解というのは無い。以前このコラムで書いたように奇をてらわず何気ないものが出てくれば「まあよし」である。希少なウイスキーを揃えているとか、カクテルの名手が居るとか、それも意味が無いわけではないが、最近は大して重要ではないと思うようになってきた。

最後が「人」である。バーテンダーとの相性が大事である点は論を待たないが、そこに居並ぶ客層も大きいと思う。周りが常連客ばかりというのも辛いし、シカメ面で飲んでいる客ばかりというのも、少しは打ち解けないものかと思う。適当に色んな客が混ざりあっていて、接客や空気感に「遊び」のある店がいいと思う。それは一度行っただけではわからない。そのバーに何度か通って「人」が織りなすさまざまなシーンに遭遇して、自分がその場の空気にあっているかが次第にわかってくる。また新たな「心地よさ」を発見することもある。



「酒陶 柳野」@京都
子供用のような小さい椅子…
ずっと座ってても何故か疲れない

結局のところ、「いいバー」であるかどうかの最大の決め手は「人」である。それは人同士の相互作用やバランスではないだろうか。多くの素晴らしいバーの風景の作品を残し、2012年に急逝した切り絵作家、成田一徹さんの「バーは人なり」という言葉は至言である。

**専務理事　日塔 貴昭**